

## 令和6年度 新潟市橋梁アセットマネジメント検討委員会 議事録

○ 日時 令和7年2月13日（木）14:00～16:00

○ 場所 白山会館 2階 胡蝶の間（WEB会議併用）

○ 委員（敬称略）

委員

学識 経験者	長岡技術科学大学 名誉教授	丸山 久一
	新潟大学 工学部 教授	阿部 和久
	新潟大学 工学部 教授	佐伯 竜彦
	長岡工業高等専門学校 環境都市工学科 教授	井林 康
	金沢工業大学 工学部 教授	田中 泰司
	名古屋工業大学 特任教授	宮下 剛
有識者	NPO 法人まちづくり学校 事業推進部	中村 美香
	新潟ゆとりロード協議会 委員	栗山 靖子
関係団体	(一社)新潟市建設業協会副会長 土木委員 副委員長	田澤 稔
	(一社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部	田村 康裕
	(一社)日本橋梁建設協会 委員	綱淵 純 ※
	(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会	岡田 規子 ※

オブザーバー

関係	国土交通省 北陸地方整備局 道路部 道路保全企画官	猿子 求
行政機関	新潟県 土木部 道路管理課 参事（課長補佐）	石野 友則 ※
関係団体	新潟市橋梁維持補修技術協会事務局長	本田 一郎

※WEB参加

○ 次第

1 開会

2 土木部長挨拶

3 委員長挨拶

4 議事

(1) 地域との意見交換を踏まえた今後の対応について

(2) 広報誌の作成について

(3) 点検及び修繕の実施状況について

5 閉会

○ 配布資料

・ 次第

・ 出席者名簿

・ 令和6年度新潟市橋梁アセットマネジメント検討委員会資料

事務局

中山課長補佐

皆様、本日は年度末のお忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。

それでは、これより「令和6年度新潟市橋梁アセットマネジメント検討委員会」を開会させていただきます。

私、本日の司会進行を務めさせていただきます、土木総務課課長補佐の中山でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、対面とオンラインを併用させていただきますので、まず、オンラインの場合の注意事項を説明させていただきます。

発言者以外は、基本的に音声をミュートにさせていただきますようお願いいたします。発言者の方につきましても、発言が終わりましたらミュートにしてください。また、意見・質問等がある場合は、挙手ボタンを押していただき、進行者が指名した後に発言していただきますようお願いいたします。また、議事録作成のため、録音させていただきますので、あらかじめご了承をいただきますようお願い申し上げます。それでは、次第の2開会にあたり、土木部長よりご挨拶を申し上げます。

丸山部長お願いします。

事務局

丸山部長

土木部長の丸山と申します。

本日は、年度末のお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

また、皆様におかれましては、日頃より本市の土木行政に多大なるご支援・ご協力をいただき御礼申し上げます。

本委員会は平成27年度より、新潟市橋梁アセットマネジメントのモデル事業として、公益社団法人土木学会のご支援および、産・学・官の連携をいただきながら、継続をさせていただいており、本委員会で皆様のご助言をいただきながら作成した「新潟市橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、優先順位の高い橋梁から修繕を進めているところです。

まずは修繕を大きい橋梁から進めているところですが、今年度からは、幹線道路に架かる橋と併せて、交通量の少ない小規模橋梁につきましても、修繕に着手していますが、これらの橋梁は、本市が管理している約4,000橋の橋梁のうち、約2,700橋と約70%を占めていることから、これらの今後の維持管理について検討するために、「地域との意見交換会」を実施しました。

その他に、「広報」や「過年度における点検や修繕の実施状況」についても、検討をいたしましたので、本日は、これらの内容について、委員の皆様から、幅広い視点でのご意見やアドバイスをいただきたいと考えていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

簡単ではありますが、開会の挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞ、よろしくお願いいたします。

事務局

中山課長補佐

ありがとうございました。

続きまして、次第の3、本検討委員会の丸山委員長より、一言ご挨拶をお願いしま

丸山委員長

す。

丸山です。新潟市でアセットマネジメントの取組みを始めて10年目くらいになります。八潮市の例もありますが、インフラの維持管理には終わりがありません。見ていく方法は色々ありますが、必要な手当てをしないと事故は突然起き、事故が起きると大きな影響を及ぼします。技術は進歩しています。行政と住民の意見交換も進みつつありますが、住民の理解を得て、場合によっては住民にも参画してもらおう等して、限られた予算と限られた人材の中でいかに工夫をしながら、今のインフラを長く使っていけるように取り組むのが大切だと思っています。新潟市は先駆的な取組みをしているため、他の自治体の参考にもなっています。

ぜひ委員の皆様から様々なご意見をいただいて、新潟市には引き続き頑張ってもらいたいと思っています。今日はよろしくお願ひします。

事務局

丸山委員長ありがとうございました。

中山課長補佐

続きまして、本日の資料確認をさせていただきます。まずは、A4の資料として、「本日の次第」「名簿」「座席表」その次に、A3クリップ留めの「会議資料」、最後に「広報誌案」になります。よろしいでしょうか。

本日の参加者の紹介につきましては、会議時間の都合上、失礼ながら配布いたしました出席者名簿を持ちまして代わりとさせていただきます。

会議の終了時刻は16時を予定しています。

それでは、これより次第4議事に入らせていただきます。

ここからの進行は丸山委員長にお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

丸山委員長

それでは、議事に入りたいと思います。次第に従って、順次ご報告とご検討をお願いします。

はじめに、1の「地域との意見交換を踏まえた今後の対応」について事務局から説明をお願いします。

事務局

本日、名古屋工業大学の宮下先生が修士論文発表会と重なり、ご欠席となりましたが、事前にコメントをいただいておりますので、資料の説明と併せて、回答させていただきます。

それでは、資料1-1をご覧ください。

「1現状の新潟市の修繕計画」ですが、メリハリのある維持管理を実施するため、管理区分を設け、優先順位をつけて修繕しています。

このため、管理区分1から3を中心に修繕を進めており、点検や修繕を通して、現状の把握を行っていますが、全体の70%を占める管理区分4について、今後の進め方を検証するために、地域の意見を伺うこととしました。

「3意見交換の進め方」としましては、まず、対象地区として、西蒲区貝柄地区を選定しました。これは、管理区分4の小規模橋梁が多く設置されており、老朽化が進

行していることや、検証するために必要な地域条件がそろっていることからこの地区を選定しました。

意見交換の「(2) 概要」ですが、まず、西蒲区選出議員にワークショップを行うことを事前に報告しました。

その後、貝柄地区5自治会長への事前に打合せを行い、ワークショップを開催することを依頼したうえで、橋のワークショップを2回実施しました。

第1回ワークショップの進め方としましては、まず、地域住民にかたに、通常に使用している橋においても、老朽化が進んでいることを知っていただいたうえで、「意見交換1」として「現在の橋の使用状況」について、聞き取りをしました。

その他に、本日もご出席いただいている金沢工大の田中先生に簡易補修の紹介もしていただきました。

第2回橋のワークショップの進め方としましては「意見交換1」の振り返りをしたうえで、「意見交換2」として、「老朽化が進んでいる橋に対して、仮に通行規制をした場合の対応」について伺いました。

その後、議題2の内容になりますが「広報誌の紹介と広報誌への掲載依頼」を行い、最後に、金沢工大の田中先生による簡易補修の体験会を実施しました。回覧の資料を掲載していますが、ワークショップをするにあたり、貝柄地区の住民に対し、お知らせを全戸配布し、出席のお願いをしました。

参加人数につきましては、宮下先生からも質問をいただいておりますが、住民の方でご出席いただけた人数としましては、第1回は8名、第2回は4名でした。

ご出席いただけた方からは、「地域住民の意見を聞き取る」形の意見交換会は初めてとの好意的な意見や、貝柄地区の住宅を訪問した際には、ワークショップの内容を把握して頂いていたりもしたのですが、「直接、生活に影響が出る内容ではなかった」こともあり、あまり多くの人数のかたにご出席いただけませんでした。田中先生に学生を2名連れてきていただき、手伝っていただいたこともあり、2つのグループに分けて意見交換をした際には、資料に写真を掲載していますが、活発な意見交換をしていただけたりと、意見交換後の発表の際には、住民の方に発表していただいたりと有意義な意見交換をすることができました。

ご出席いただけた方は、「自治会長」や「農業の代表者」を中心に、「農業以外の職業をしている方」にもご出席をいただきました。

また、ワークショップで意見交換した内容につきましては、ご出席いただけなかった方にも回覧で周知をしました。

概要につきましては以上になります。

資料1-2をご覧ください。

続きまして、実際に意見交換をした内容になりますが、第1回ワークショップで行

った「使用状況の聞き取り」について、説明をいたします。

使用状況の聞き取りをするにあたり、「(1) テーマ」として、「よく使用する橋トップ5 および使用しない橋トップ5」「危険性を感じたエピソード」の2つのテーマを基に意見交換をしました。

右の貝柄地区の平面図をご覧ください。まず、貝柄地区の概要ですが、地図の中心に集落があり、県道が交差する形で通っています。緑着色をして箇所は、元々県道が通っていた箇所になります。

「(2) 使用状況」についてですが、全体的な大まかな導線としましては、集落内のご自宅から、「緑着色の旧道」を通して、県道や田んぼに行くという経路をよく使用しているということを伺いました。

また、農業をしていない人は、ほとんど田園部へは行かないとの話も伺いました。

このため、使用頻度が多い橋梁は、「県道に架かる橋」、「旧道に架かる橋(通学路)」「その他の橋」の順に使用していることを伺いました。

使用頻度が少ない橋としては、3橋掲載していますが、地図の左上に設置されている田園部の③、集落にある④⑤については、あまり使用していないとのことで、田園部に限らず、集落内にも「あまり使用していない橋」があることを確認することができました。

その他、特徴的な使用状況としましては、「農耕車両の導線」ですが、農耕車両はスピードが遅いことから、交通量が多い県道を避けて交通量の少ない道路を使用していることや、農業を営んでいる人は、田んぼを1箇所にとまどめて所有しているのではなく、田んぼを様々な場所に分散して所有していることから、田園部のどの橋も使用していること、また、他地域に住んでいる貝柄地区の田んぼの所有者も一定の人数がいるため、田んぼのためにこの地域に来ている人が一定いることを伺いました。

次に「(3) 危険性に関する意見」として、農耕車両の大型化に伴い、幅員が狭い橋に対して危険性を感じるとのご意見を伺いました。

「(4) その他、地域要望に対する対応」として、「橋の段差による振動⑧」「資格の原因となる樹木の伐採⑧」「抜け道対応⑨」のご意見をいただき、西蒲区建設課で対応をしていただいています。

いただいたご意見を踏まえまして、「(5) 貝柄地区における今後の対応」として、使用頻度等に基づいた優先順位をつけて、修繕を進めていきたいと考えています。

また、本地区は圃場整備の計画があり、田んぼを大きくして農業効率を向上させる計画あることから、田園部の橋のあり方を、圃場整備とともに検討することをお願いし、ご了解を頂きました。

最後に、老朽化している橋がいくつもある地域ですので、橋の異常に気が付いた際には、通報をしていただくよう、依頼をしました。

資料 1-3 をご覧ください。

続きまして、第 2 回ワークショップで意見交換を行いました「仮に通行規制をした場合の対応について」ですが、こちらに掲載している 3 か所は、実際に老朽化が進行しており、今後の対応の検討が必要になる可能性がある橋について、住民のご意見を伺いたく、意見交換を行いました。

意見交換をするにあたり、意見交換①で既に使用状況を伺っていたため、意見交換をしやすい箇所からご意見を伺いました。

まず、「①936-4 号橋と他 3 橋」についてですが、こちらは、写真を掲載していますが、同形状の橋梁が 4 橋並んでおり、それらの橋梁において、一律に老朽化が進み、健全度Ⅲとなっています。

意見交換をしているなかで、80 代のかたが子供のころからあったとこの話もあり、古くから架けられている橋梁で、老朽化が進行している橋梁になります。

また、写真にあるように、橋の下部に鉄筋が露出している状態にあります。

いただいたご意見としましては、「連続する 4 橋は、迂回できるため、圃場整備が完了するまでの期間限定であれば、4 橋のうち 1 橋が使用できなくなっても、許容できるのではないか。」「両端の 2 橋はよく使用しているが、真ん中の 2 橋はあまり使用していないと思う。」とのご意見をいただきました。

迂回路もあり、使用頻度も限られていることから、これらの橋であれば、通行規制等による対応が検討できる可能性があることを確認しました。

次に「②956-1 号橋」になりますが、いただいたご意見としましては、「使用しているのは 3 世帯くらいではないか。」「元々高欄がない橋であったとのことですが、高欄を設置したことにより幅員が狭くなったため、車で通行すると、高欄に車がぶつかる危険性を感じるため、車はほぼ通っていない。隣接している幅員 6m の橋梁、車は隣接している貝柄橋と無名橋(3)を使用している。」「車止めを設置し、歩行者と自転車のみの使用に制限することに対して、同意が得られる可能性はあると思う。」とのご意見を伺いました。

こちらの橋梁につきましては、橋のそばに住んでいる住民との調整がうまくできれば、通行規制等の対応が検討できる可能性があることを確認できました。

最後に「境橋(3)」ですが、こちらは、旧道に架かる橋で、現地確認をした際も、自動車の通行を何度か見かけた橋になりますが、近くに県道の橋(境橋)が架かっている位置に設置されている橋になります。

いただいたご意見としましては、「通勤に使用している。交通量は少ないが、地域にとっては重要な橋。」「主に車で使用しているため、車止めの設置は現実的ではない。」「境橋(3)が使用できなくなった場合に、迂回に使用する代替路(下の写真にあるが、4m もない道路なので)は幅員が狭く、車がすれ違う際には、民地を使用して

いる。」「通行規制に関しては、2t以上の重要規制であれば、同意を得られると思う。ただし、地域住民しか使用しないため、今でも大型車はほとんど使用していない。」とのご意見を伺いました。

その他にも、境橋(3)の高欄は、太平洋戦争の際に、鉄不足により回収したとの話もあり、地域にとっては、愛着もあり、且つ、よく利用されていることから、地域にとって重要な橋であることから、通行規制は難しいとの印象でした。

資料 1-4 をご覧ください。

6. ワークショップを実施したことで分かったこととして、1つ目は「交通量が少ない橋においても、「地域にとって重要な橋」がある。」ということ、2つ目は「あまり使用していない橋」であれば、地域との通行規制等の調整を進めることができることです。

この「地域にとって重要な橋」と「あまり使用していない橋」の見分け方について、宮下先生から見分け方についてのご質問をいただいておりますが、

今回の意見交換のように、導線や用途を聞いたうえで、代替路の確認をしなければ、見分けができないことから、「地域にとって重要な橋」かどうかは、住民に確認すれば見分けはつくが、住民に聞いてみないとわからないというのが一番の印象でした。

ただし、意見交換2において、「地域にとって重要な橋」と「あまり使用していない橋」では、住民の方の反応が全く違ったことから、住民の方とのコミュニケーションが一番大事だと思いました。

3つ目として、「橋の現状や計画」を伝えることの重要性を再認識しました。

こちらにつきましては、次の議題で広報誌を作成しているように、市民に「橋の現状や計画」を伝えることの重要性について、過去の委員会でもご指摘をいただきましたが、事前に「橋の現状や計画」について説明をしなければ、地域住民から協力的な意見もいただくことはできないのではないかと思います。

このことから、地域住民に通行規制等を伝える際に、事前に「橋の現状や計画」を伝えることは、重要な手順であると実感しました。

4つ目として、「さび止め塗装」についてですが、こちらは、金沢工大の田中先生が、地域住民のかたに橋への関心を持ってもらい、維持管理の現状を理解していただくことを狙いに、錆止め塗料の体験会を実施していただいた中で、実施にデモンストレーションをしたのですが、住民だけではなく、私どもも実感させていただいた事項になりますが、こちらの技術について、管理区分4の小規模橋梁のタブレット点検を受注している建設業協会に依頼することで、点検と一体に、簡易補修に活用できるのではないかと思います。

7. 今後の対応の「(1) 長寿命化修繕計画の変更」です。

管理区分4においても、「地域にとって重要な橋」があり、適切に維持管理するために、新潟市が実施している「維持管理戦略シナリオ」を修正したいと考えています。

下に掲載しているシナリオの一覧表になりますが、シナリオを一部修正したいと考えています。

修正箇所としましては、管理区分4になります。現行では、管理区分4の「修繕のタイミング」ですが、修繕を「緊急対応のみ」としており、「シナリオ」についても「最小限の維持管理とする」としていましたが、修正案としては、修繕につきましては、健全度Ⅲで修繕をすることで、今ある施設を長く使用できるように、修繕を実施していきたいと考えています。

また、シナリオにおきましては、「修繕をして使い切る」「地域にとって重要な橋は、しっかりと修繕を行い、架け替えも検討します」「利用者が少なく、隣接する橋がある場合は、集約化撤去も検討する。」との修繕を行い、管理区分4の場合でも、地域にとって重要な橋の場合は、修繕をしっかりと行っていきたいと考えています。

資料1-5をご覧ください。

2番目に広報についてです。通行規制等をする場合、下記のフローの通り、地域の同意が得られなければ、協議が進まないため、一番の狙いとしてしましては、住民説明をする際に使用するものを作成したいと考えていますが、併せて、将来、地域住民と調整をする前に、理解の促進が図られているように、今のうちから「現状と計画」を周知していきたいと考えています。

3番目に過年度実績の整理についてです。将来、他の地域において、橋の通行規制等について協議をする際に、過年度の実績を踏まえて協議ができるよう、整理していきたいと考えています。

4番目として、「錆止め塗料」による簡易補修の運用について、検証することです。管理区分4の老朽化の状況ですが、今年度、タブレット点検の実施状況を確認しましたが、大きな損傷ではないのですが、掲載している写真のように鉄筋が露出している箇所が多くあり、「錆止め塗料」による簡易補修をすることができれば、今ある施設を長く使用できるのではと考えています。

以上になります。

丸山委員長

ありがとうございました。

ただいまの説明について、ご質問、ご意見などございましたらお願いします。

阿部委員

まず取り組んでみるのが何よりも大事だと思って聞いていました。今後他の地域でも展開する予定がありますか。

事務局

貝柄地区での意見交換の目的は、管理区分4の橋梁の実態の確認と、それに伴う計画の変更でした。今回のワークショップを通して分かったこともあるため、今回の目

	<p>的は一旦整理できたものと考えています。</p>
阿部委員	<p>住民の母数が分からないが、住民の皆さんの意見が適切に反映されていたのか不安であります。今後の戦略にどう反映して計画の修正を図るのか、考え方を周知していく方が重要ではないかと思えます。1回意見交換をして、それで周知したと考えるのは難しいと思えます。他の地域でも確認する必要があるのではないのでしょうか。そのあたりの調整は今後実施する予定ですか。</p>
事務局	<p>今回分かったこととして、地域の方はそれぞれの生活で使っている動線があり、車・自転車・徒歩によって動線が異なることが分かりました。今回、地域ごとに定量的・定性的な分析ができないか検討しましたが、地域ごとに直接聞いてみないと分からないことが分かり、これもひとつの結論だと考えています。また、住民に説明する機会では、市の状況を知ってもらったうえで、市の考え方を聞いてもらえた方が、協力的になっていただけることも分かりました。住民の母数が少ないことはご指摘のとおりですが、他の地域でも主なご意見等は変わらないのではと考えています。</p>
阿部委員	<p>他の地域でも取り組むためには、その地域でどのように橋梁が利用されているか、今回のように都度確認する必要があります。この取り組みが地域にどう地域に浸透していくかが重要になると思えます。</p>
丸山委員長	<p>今回のワークショップでは、意見交換を経て必ず集約しますという内容ではありませんよね、新潟市としても今後の手順を確認する取り組みのひとつだと思います。</p>
阿部委員	<p>手順としてこれで良かったのかは、反省と改善の繰り返しが必要だと思います。</p>
佐伯委員	<p>資料 1-4「7. 今後の対応」として示されている「長寿命化修繕計画の変更」ですが、管理区分 4 の維持管理戦略シナリオを修正することで、どのように変化するのか試算は行っていますか。管理区分 4 の橋梁で個々に取り組む分には費用も少ないが、新潟市は橋梁が多いため、費用がかさむのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>簡易補修は既に取り組んでいます、ご指摘の試算は行っていません。小規模橋梁の老朽化に対して断面補修やひびわれ注入等を行っており、1箇所あたり 100 万円弱の修繕費がかかっています。新潟市の場合、有明大橋の修繕等に何十億円という費用がかかっていますので、そういった対策と比べるとこなせない規模ではないと考えています。</p>
佐伯委員	<p>何もシミュレーションしていないとどんどん費用がかさみそうなので、すぐに検討してもらいたいというわけではないが、多少定量的な計画は検討した方が良いと思えます。</p>
丸山委員長	<p>新潟市全体の予算もある中でどのように橋梁の修繕等にお金を使っていくか考えることになりますが、新潟市の橋梁は区分もできていますので、多少みていくようなイメージです。</p>
事務局	<p>新しい技術も活用して、抑えられる部分はコストを抑え、強弱をつけて取り組みた</p>

	いと考えています。
佐伯委員	1箇所100万円以下と言われると修繕費としては安く見えますが、100橋になれば、億単位の費用がかかるため、気を付けて取り組んでもらいたいです。
丸山委員長	一度には取り組めないで、5年計画の中で、どこまで取り組めるかによりますね。
田中委員	貝柄地区でのワークショップを通して、簡単に集約化撤去はできないことが分かりました。しかし、このままでは住民との対話で指摘されて補修を行う橋梁が増え、破綻しそうな計画になってきたため、住民が必要と思う橋梁は管理区分3のように補修をして、そうではない橋梁は簡易補修で延命するようなメリハリをつけて取り組んだら良いと思います。
	維持管理・修繕の方針は説明のとおりで良いと思います。様々なメーカーが新技術を開発しているため、どの技術を活用すると費用が抑えられ長持ちするのか、今後検討して工夫できたら良いと思います。
丸山委員長	5年後・10年後にどうなっているか定期的に計画を見直すことも必要です。対策を何もしなくて良い場合もあれば、対策したけど上手くいかなかった場合もあると思います。定期点検のデータをしっかりと蓄積して、取り組みを継続していくことが良いと思います。
	今回のワークショップで地域との対話が終わりというわけではないですよ。今回得られたことをベースに戦略を検討しますか。国からは集約化の検討を進めるよう言われていると思いますが、この地域では検討しない方針ですか。
事務局	貝柄地区の橋梁は、まだ使用できる状態の橋梁になりますので、使用できない状態の橋梁が出てきた時に、対策工事の方法や今回検討して組み立てた考え方等を検証したいと思います。
栗山委員	ワークショップの開催では自然と人が集まりましたか。女性や子ども達の興味や関心はありましたか。
事務局	ワークショップを開催する前に、自治会長と農業の代表者に個別訪問をしています。第1回は8名だったため、第1回の参加者にどうしたら参加者が増えるか質問したところ、回覧を直前に回したら良いのではないかと提案をいただきましたので、第2回では、2週間前に自治会長から全戸配布した後に、3日前に市職員で全戸へチラシを配布しましたが、あまり集まっていただくことができませんでした。住民に直接チラシを渡した時には、住民から「頑張ってる」との反応もありましたが、今回のテーマが将来的な検討だったため、自分事に捉えていただくのは難しかったです。
事務局	地域の橋が無くなる等、生活に影響がある状況なら危機感を持ってもらえると思いますが、将来どうしていくかに主観を置いた取組みだったため、住民からの関心が低かったと考えています。地域の中でどのように補修していくか等のワークショップも組み合わせると、女性や子ども達も参加してくれて、子ども達が将来大人

になった時に「過去にこういうことがあったな、いよいよ時期が来たな」という状況に繋がると思います。

住民に関心をもってもらいながら、状況が変わった時に、一緒に取り組めると良いと考えていますが、正直時間がかかるため、息の長い検討になると思います。

中村委員

ワークショップで参加者が少なかったことは残念ですが、それでも参加して、ご意見を出してくれた人が居て、色々と整理できたことは成果だと思います。

田中委員に質問なのですが、ワークショップで実施した簡易補修の錆止めスプレーは、どの程度の間隔で使用するものですか。

田中委員

簡易補修の錆止めスプレーは NEXCO が開発しているもので、吹付は 5 年に 1 回程度で良いのですが、吹付前に掃除が必要だったり大事なノウハウがあります。先日貝柄地区の橋梁で試行したので、経過観察をしながら、実際にどの程度効果が継続するのか等を把握したいと考えています。

丸山委員長

橋梁を利用している住民の方々に協力を得られると良いですね。

田中委員

第 2 回のワークショップに参加いただいた住民の方に新潟市から錆止めスプレーを提供したので、使ってもらいたいと思います。橋梁で使う前に自宅で使うことになるとは思いますが、効くことを実感してもらえれば、住民に協力してもらって簡易補修のきっかけになるかもしれません。

丸山委員長

息の長い取組みなると思うので、継続できると良いです。住民の意識が橋梁に向くと、色々な情報が早く入るようになって、対応も早くなっていくと思います。今後も広報活動の一環として時々モデル地区での取組みに挑戦してもらいたい。引き続き頑張ってください。

他に、ご質問、ご意見などございますか。

よろしいようであれば、次の議事に進みたいと思います。

丸山委員長  
事務所

では、議事 2 の「広報誌の作成」について、事務局から説明をお願いします。

資料 1-2 をご覧ください。

1. 現状ですが、(1) 令和 2 年度に委員会のなかで、広報手法を検討し、橋梁への関心を高めることを目的とし、「新潟市橋物語」を発行しています。コンセプトのとおりで、市の方針を示すものではないので、新たに市の方針を示す広報誌を作成しています。

2. 新たな広報誌の方向性ですが、(1) 目的は、「市の計画」を市民に知ってもらうことと、「施設を使い切る」という方針で修繕を行っているため、将来的に「通行規制」や「集約化撤去」もあり得ることを柔らかい表現で周知することです。

(2) 使用方法としては、橋梁の将来のあり方について、地元調整を行う際に使用することと、区役所等の窓口のラックに設置することも想定しています。

(3) ターゲットとして、地域住民への説明会の際に使用することを目的としている

ことから、40歳代から高齢者を対象にすると考えています。

3. これまでの検討内容ですが、8月に橋梁アセットマネジメント検討委員会の事前打合せで素案や進め方に対する確認を行い、その後、11月に橋梁アセットマネジメント検討委員会の市民広報手法検討部会で中村部会長と栗山委員に精査した案をご助言いただき、また、12月に貝柄地区でのワークショップのなかで、広報誌にワークショップの内容を掲載することの確認とご了解をいただき、広報誌の素案を使用した説明も実施しました。その他にも1月に丸山委員長に実施状況を報告した際にご報告させていただき、現案になっています。では、広報誌の現時点での案を見ながら、内容を説明いたします。

まず、全体の構成について説明します。

パンフレットを開いていただいて、「1. 全国における橋の現状」というタイトルで、内容としましては、サブタイトルに記載した通りですが、新潟市に限らず、全国で一斉に橋の老朽化が進行していることを説明させていただくページとしています。

次に左側のページをめくっていただいて、「2. 新潟市における橋の現状」とのことで、更に新潟市の場合は、多くの橋を管理しており、その橋を塩害環境下で維持管理する必要があることから、全国よりも悪い条件下にあることを伝える資料を添付しています。

その隣ですが「3. これからの橋の計画」ということで、財源に限りがある中で、多くの施設を効率的に維持管理するために、3つの考え方で維持管理することを伝えるページとしており、その隣に、貝柄地区での検討状況を紹介する資料をつけています。

最後に折りたたんでいただきまして後ろのページに「4. 橋の異常に気が付いたら、教えてください」との資料で市民のかたへのお願事項を掲載しています。

全体の構成は、このような流れですが、次に詳細について、説明をさせていただきます。

まず、表紙になりますが、新潟市橋物語ということで表紙の写真については、関屋分水にかかる有明大橋の現在の修繕状況の写真としており、修繕の写真をつけることで、橋の修繕の話をする際に「出水期による施工条件」や「費用面として足場の説明をすること」がありますので、それ説明できる写真を選定しました。

全体のデザインにつきましては、11月の広報部会で素案を出して選定したものになり、また、広報部会において、「一緒に考えましょう」という投げかけを入れてみた方が手に取ってもらえるのではとのご助言をいただき、掲載したものになります。

パンフレットを開いていただいて、「1. 全国における橋の現状」のページですが、高度経済成長期に有明大橋を建設時の写真を事例にして、一斉に老朽化が進んでいることを強く伝えるために、サビ、ひび割れ、剥離の写真を掲載しています。

維持管理費用につきましては、事前打合せの際には掲載していなかったのですが、維持管理費用が多くかかっていることを伝えないと市民は分からないとのご指摘をいただき、掲載しました。数字は新潟市の実績を掲載しています。

将来、想定される懸念事項の箇所につきましては、人口減少によって起きる事象として、地域経済の縮小とともに、土木技術者の減少も追加で掲載しました。老朽化による費用の増加も掲載しています。

Q&A としてコラム的な内容を掲載しています。当初は、「歯」ではなく、「人」で例えており、人間ドックや病気になった場合で表現しており、また、「いずれ」以降のコマは掲載していなかったのですが、「いずれ」がないと修繕が表現しづらいとのご指摘もあり、「いずれ」を掲載しないと、未来永劫、橋が使用できるような印象を持たれる可能性があるとのご指摘をいただきまして、追記しました。

次に「2.新潟市における橋の現状」のページですが、興味を持ってもらう手段として、橋の平面図を掲載し、橋が多いということを知ってもらい、塩害の情報と併せて掲載しています。ハザードマップとかなら見るとのご意見もあるため、自分の住んでいる地域や知っている地域に橋があるのか等を見ていただければとのことで平面図を掲載しています。平面図には、橋長別に色分けして、設置場所を記しており、最低限のランドマークとなる施設や橋を掲載しています。

「3.これからの橋の計画」のページですが、新潟市として言いたいことを1～3番に示しています。1番目として、「安全を確保したうえで今ある施設を使い切ります」との文章で、実際に通行規制をしている月潟橋（8トン規制）を掲載し、安全に使用できなくなった場合は、通行規制をすることを伝えるものとしています。

次に「メリハリある効率的な維持管理を推進します」ということで、橋によって、維持管理の考え方が異なることを説明する資料としています。ここでは、貝柄地区での検討を踏まえ、交通量が少なくても、「地域にとって重要な橋」は架け替えも含めて修繕を検討することを掲載しています。

3番目としては「将来のまちづくりを見据えて、今後の橋のあり方を検討します」ということで、貝柄地区での、移転によって使用頻度が落ちた事例や圍場整備に伴い集約化を検討する事例を掲載しています。

最後に「4.橋の異常に気が付いたら、教えてください」ということで、こちらにつきましても、貝柄地区においてお願いをした内容を掲載しています。

このようなかたちで広報誌を整理しています。

広報についての宮下先生からのコメントや質問についてですが、他都市の好事例をコラム的に紹介してはとの意見は、内容が多くなりすぎるので今回は行っていません。まず、「無名橋の名付け親」についてですが、資料には記載しなかったのです

が、貝柄地区でのワークショップのなかでも、無名橋の命名について、打診したのですが、あまり興味を示していただけませんでした。他の地区（北区）でも、今年度に自治会に無名橋の命名について打診した事例がありましたが、あまり関心を持ってもらえませんでした。

貝柄地区において、地域住民の方に住民に道を尋ねたことがあるのですが、「〇〇さんの家を右に曲がって」等、住民特有のランドマークがあるため、特に必要としていないのかなという感じでした。他都市の好事例では、子供とかが名づけをしていたため、そういうのであれば興味を持ってもらえるかもしれません。

次に「広報誌のターゲットについて、16歳以上を対象でも良いのでは」とのコメントをいただきましたが、40歳以上と言いましたが、小学生以上で習う漢字に対しては、ルビを振りましたので、小学校高学年であれば、読める内容としていますので、12歳からでも問題ない内容になっているのかなと考えています。そのため、先ほど対象を40歳以上といったものの、そういう内容になっています。

4. 今後の対応ですが、(1)本委員会での助言を踏まえて、今年度中に発行し、併せてHPで公表する。(2)次年度に自治協議会（自治会長の集まりの場）等の場で、広報誌を周知する。(3)その後、橋梁の老朽化に伴い、通行規制が必要になった場合に、地元への説明の際に使用する。以上の3点を考えています。

以上で説明を終わります。

丸山委員長

ありがとうございました。

ただいまの説明について、ご質問、ご意見などございましたらお願いします。

田村委員

良いパンフレットが出来たと思います。

全国の橋について書かれている部分ですが、タイトルは全国の橋なのに対して、ほとんどが新潟市の内容となっています。タイトルは適切ですか。

資料2-2「これまでの検討時における主な指摘事項と対応案について」で書かれているとおり、以前意見として挙げた内容を反映していただきありがとうございます。

「橋の異常に気づいたらお知らせください」の部分ですが、連絡をした市民がその後の対応について知るにはどうしたらいいのでしょうか。経過報告等は考えていますか。

事務局

「全国の橋」というタイトルについてですが、広報誌を使用した説明シナリオとして、「全国共通の課題を説明した後で、新潟市における特徴を説明するシナリオ」を考えているため、今の形になっています。新潟市の現状を事例に使用していますが、全国で同じように老朽化は進んでいるため、誤りではないという認識でこのタイトルとしています。

異常の通報に関する部分ですが、通常の維持管理の際も区役所で何かご要望があって対応する場合には返しており、一方通行ではない仕組みになっています。

阿部委員

パンフレットを作ることは重要なことだと思います。

表紙写真の有明大橋ですが、この橋は多くの時間帯で渋滞しているイメージがあります。渋滞している写真の方が、この写真を見た人が、みんな使う橋なんだと分かってくれるような気がしました。よく利用していますが、写真のような状況の時間帯は少ないと思います。

新潟市の実績を基に、橋の維持管理費を示している部分ですが、点検費 2.4 億円は 1 年間の費用、修繕費や架け替え費では 1 橋あたりの費用が書かれているため、読み手が違いを理解するのに時間がかかる気がします。分かり易く伝わる工夫があると良いと思います。

「3. これからの橋の計画」で②の表内にある「交通量は少ないが、地域にとって重要な橋」と、「生活道路や農道の橋のうち交通量が少ない橋」の違いが分かりづらいつ感じました。地域にとって重要な橋を指していると思いますが、何が重要なのかだけを簡潔に残した方が良いと思います。丁寧に説明をしすぎて逆に分かりづらくなつた印象を受けました。

佐伯委員

良いパンフレットだと思います。

このパンフレットは区役所のラック等に設置されるだけですか。市民に知ってもらうためには、もう少し積極的に配布した方が良いと思います。

経験則ですが、大学の授業で、情報や電機等の土木が専門分野ではない学生にインフラの話をする機会があります。学生からは「全然知らなかった」と言われることが多く、最近でもそういった状況です。認知度も変化していないと感じます。

積極的に広報してもらいたいです。この委員会の範囲からは外れますが、インフラも含め行政サービスそのものが、今後だんだんと同じように提供できなくなる可能性があることを、子どもの頃から知ってもらった方が良いと思います。どれも息の長い事業ですから、インフラに限らず、新潟市全体で戦略的に取り組んでもらったら良いと思います。

丸山委員長

市立小学校等の教育機関には、地域のことを知る授業があったように記憶しています。小学生に分かるようなレベルの話ではないかもしれませんが、教育機関に話をして、1 回 30 分程度でもそういった話をする機会があっても良いですね。参加した小学生が家に持ち帰り、子どもを通して家族が知る機会になっても良いと思います。

建設業協会が高校生向けの出前授業をやっていたように記憶しています。全部の小学校に対して実施することは難しいと思いますが、学生ボランティアの取組みのひとつとして実施してもらっても良いと思います。長岡高専でも学生がやっていませんでしたか。

井林委員

学生の取組みとして本学でも実施しています。

綱淵委員

日本橋梁建設協会では、高校生向けの勉強会を年間 2~3 回実施していたと思います。参考までに情報共有です。

阿部委員

過去の取組みですが、新潟市在住の方で、下水道がなぜ必要なのかを子ども達に知ってもらうために絵本をつくった方が居ました。絵本ではオリジナルキャラクターが登場して、そのキャラクターが物語の中で下水道について説明するような内容です。市内の小学生に配布したようで、当時子どもが学校から持ち帰った絵本を見ました。その絵本がどのくらい子ども達に浸透し、効果があったかは分かりませんが、効果がありそうなら、費用はかかりますが、そういった取組みも良いと思います。

栗山委員

夏休みの自由研究講座等で、橋について勉強する講座を取り組んでいる地域もあります。学校と連携した取組みを検討するのであれば、この時期から学校側との調整をはじめないと授業に組み込むことは難しいです。

こういった取組みをきっかけに将来その職業に就く人も居ると聞くので、ひとつ市が骨を折ることになりますが、子ども達が将来の夢を持つきっかけになるような取組みも良いと思います。

中村委員

パンフレットについて色々検討いただきありがとうございます。

「全国の橋」というタイトルなので、全国的な内容が分かると思います。個人的には関屋分水路の部分はインパクトが大きいと思います。

橋が多い地域と言えば大阪の印象があり、以前大阪では「橋物語」という本を出版したことがあります。橋マニアの人が著書でした。

その他にも、ダムカードのように橋カードを作っても面白いと思います。新潟市は4,000橋もあるので、デジタルであれば何かできると思いました。

新潟市は橋梁が多く、一斉に寿命を迎えそうだということや、各地域で戦略的に取り組んでいることが伝わる工夫があると良いと思います。

広報部会の際に提案した、漢字へののび等は対応ありがとうございます。前回発行した広報誌よりも、地域の人が自分事に考えるきっかけとなる内容になったと思います。

次の一步になるような広報ツールも、次の段階では必要だと思います。今例に挙げたような実際に取り組んでいるような広報ツールを活用して、地域の人が地域にとって重要な橋について語っているような情報がネット上で発信されると良いと思います。

今冬の雪のように一斉に滑り止めの塩を撒くことがあると、撒かれた塩はその後どうやって無くなるのか気になる。今後も経験のない異常気象が発生するため、広報誌の中には将来の懸念事項として、そういった状況が橋に及ぼす影響について書いてあっても良いと思いました。

丸山委員長

橋の異常を通報してもらうことを住民に依頼していますが、情報を受け取る部署等がありますか。新潟県にはそのような窓口ができたものの、土日にも意見が来て、すぐに返信をしないと指摘されてしまうというのを聞いたことがあります。必ず応答した方が良いものの、似たような意見にはまとめて応答する等は考えた方が良い

	<p>と思います。</p>
<p>オブザーバー 石野氏</p>	<p>新潟県土木部道路管理課の石野です。新潟県の道路異常は電話とLINEで通報するシステムになっています。全ての通報に対して個別に返すことは難しい状況で、通報いただいた方々にどのように応答をお示ししていけるかは、今後も検討していく必要があると考えています。</p>
<p>オブザーバー 猿子氏</p>	<p>国土交通省北陸地方整備局道路部の猿子です。国内には73万橋あり、50年を経過する橋梁は約4割になります。これから10年経つと、その割合は67%まで増加する見込みです。新潟市が発行した前回の広報誌でも老朽化について触れていますが、国土交通省でもインフラ施設の老朽化に関する資料等を公表していますので、参考にさせていただきたい。</p>
	<p>また、国土交通省における橋や道路の異常があった場合の連絡先として、道路緊急ダイヤル「#9910」があり、県道や市道の連絡があった際には、各道路管理者へ情報提供をすることとなっています。</p>
<p>丸山委員長 オブザーバー 猿子氏</p>	<p>国土交通省の資料等は出典を記載すれば引用して良いですか。 そのようにしていただければ問題ないです。</p>
<p>阿部委員</p>	<p>パンフレットは紙面が限られているため、伝えられない情報はQRを付けて、更に詳細な情報が分かるようにしたら良い。橋梁ごとにバーコードを貼って、その場で通報したりできるような仕組みになると面白い。</p>
<p>丸山委員長</p>	<p>面白いですね。観光地でもQRを読み取って情報を確認できるような仕組みを見かけます。こういった広報ツールの検討を今後の課題にしても良いと思います。 他に、ご質問、ご意見などございますか。 よろしいようであれば、次の議事に進みたいと思います。</p>
<p>丸山委員長</p>	<p>では、議事3の「点検及び修繕の実施状況」について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料3-1をご覧ください。 昨年度に2巡目点検が終わったタイミングであり、また、丸山先生からのこれまでの修繕状況の確認について、ご質問をいただいたことから、過年度の実績額を整理したものになります。 まず、「1. 橋梁修繕事業の決算額」についてですが、これは法定点検開始の平成26年度からの決算額になります。表の右側になりますが、年平均ですが、「点検費用および管理費用」が2.8億円、修繕費用が18.6億円、耐震が0.5億円、合計で22億円の事業費で修繕を実施しています。全体としましては、このような事業費で修繕を行っており、そのうち、2. 点検費用についてですが、こちらにつきましては、1巡目点検と2巡目点検の決算額の比較をしています。</p>

新潟市では管理区分によって、点検方法を変えていますので、点検方法別に整理しています。

まず、「管理区分1から3の詳細点検を実施している橋梁」になりますが、橋梁数は約1200で、1巡の点検をするのに、10億円以上がかかっています。

1巡目点検と2巡目点検では点検方法はほぼ同一となっていることから、1巡目から2巡目への増額の要因としては、昨今の人件費高騰による影響と考えています。

次に、「管理区分4の概略点検を実施している橋梁」になりますが、橋梁数は約2700橋で、1巡目点検では、約3億8千万円で、2巡目点検では4千万円でした。

1巡目点検と2巡目点検で点検費用について、大きな差額が生じていますが、これは、1巡目点検は建設コンサルタントによる概略点検を実施しているのに対して、2巡目からは建設業協会へのタブレット点検に変更した結果、点検費用が減額したのになります。

点検精度について、宮下先生から「国の橋梁点検要領が、3巡目点検に向けて改定され、「性能の見立て」、これは「地震の場合、橋は耐えられるか」「洪水に対して、橋は流出しないか」という検証的なものになりますが、この部分に関して、タブレット点検での難しさなどは特にありませんでしょうか？」とのご質問をいただいています。

実際に、井林先生にタブレット点検の改良をしていただいた後に、建設業協会と打ち合わせをした際に、建設業協会では判定のハードルが高いとの話を受けています。

これに対しまして、井林先生に相談をさせていただき、対応を検討したのですがまず、国の点検要領ですが、これは、小規模橋梁に加え、大規模な橋梁も対象としていますが、タブレット点検を対象としている橋梁は、小規模橋梁のみが対象ということで、「国が求めている技術的視点での検証」をする必要がない項目や回答のルールを整理することで、点検を実施することができたという経緯があります。

例えば、耐水対策に対してですが、管理区分4の小規模橋梁には、用水路、排水路に架かっている橋が多いため、これに関しては、検証する必要がないため、事前に回答のしかたを決める等、回答項目の単純化とともに、「健全度評価における工程スケジュール」を明確にすることで、建設業協会による点検を実施することができました。また、健全度評価につきましては、道路管理者が直す必要があると判断した施設をⅢ、そうでない施設をⅠⅡに判定するものですので、その工程を明確化することで、建設業協会の負担を軽減し、この課題をクリアしました。

他にも「点検支援技術性能カタログの活用状況や活用予定を教えてください」との質問も頂いていますが、昨年度の実績ですと、詳細点検約130橋のうち、ドローンを2施設、点検支援ロボット（遠隔カメラ）を5施設に対して行っています。

「点検車を使用した近接目視の点検」と「新技術を活用した点検」の費用比較をしますと、新技術が高くなってしまいう傾向があり、またドローンや点検ロボットに掲載

したカメラで確認するよりも、近接目視のほうが、確実な確認ができることもあり、なかなか新技術の活用は進んでいません。

今年度についても有明大橋でドローンを使用していますが、これは、修繕工事を行っていることから、点検車（BT400）を設置できないことからドローンを採用したものです。条件をみて、個別に判断して活用していますが、活用があまりすすんでいないのが実態です。

続いて資料 3-2 をご覧ください。

### 3.1 巡目点検における点検結果と修繕着手状況になります。

1 巡目点検は平成 26 年度から平成 30 年度まで実施した点検であり、国から、早期に事業着手をすることが求められています。本市における実施状況ですが、表に掲載した通りになりますが、R5 末時点で、健全度ⅢⅣに判定した 530 橋のうち、着手した施設が 252 橋で 48%となっており、未着手の施設が 278 橋あります。半数は未着手という状況です。

「(2)未着手の施設が多い理由」ですが、メリハリある維持管理を実施するにあたり、シナリオ上、健全度Ⅲであっても修繕を実施しない施設があります。

掲載している表がシナリオになりますが、青線で囲った場所が、健全度Ⅲと診断してもシナリオ上、修繕をしない施設になります。

(3)において、「1 巡目点検で健全度ⅢⅣの施設のうち、未着手の施設を「シナリオ別の未着手施設数」を整理した資料になり、青着色した箇所が、「健全度Ⅲであってもシナリオ上修繕を行わない施設」になり、未着手 278 施設のうち 255 施設が健全度Ⅲであってもシナリオ上行わない施設となります。

シナリオ上修繕を行わない施設のうち、管理区分別の内訳ですが、管理区分 2,3 が 65 施設、管理区分 4 が 190 施設になり、これらをどのように対応しているかを整理したものを (4) になります。

「管理区分 2,3」の場合は、点検要領を変更することで、対応することとしています。具体的に、点検の際には「部材単位の健全度評価」と「道路橋毎の健全度評価」を行い、施設としての健全度を診断しますが、これまでは、「部材単位の健全度評価」と「道路橋毎の健全度評価」のどちらも損傷に応じた評価を行っていたため、シナリオによっては、健全度Ⅲであっても、修繕をしない施設が生じていました。

そのため、「修繕をする施設のみ」を健全度Ⅲ判定とするように、「部材単位の健全度評価」の際には、損傷に応じた評価を行い、「道路橋毎の健全度評価」の際に、新潟市のシナリオに基づいて、修繕を実施する施設に対しては健全度Ⅲ、修繕を実施しない施設に対しては健全度Ⅱとすることで、「修繕をする予定もない」のに健全度Ⅲの施設をつくらないように見直しを行いました。

「管理区分 4」の場合は、国土交通省の国土強靱化計画における修繕着手率の目標

が、R7 末までに 73%であることから、本市におきましても、小規模橋梁の修繕を今年度から実施しています。

(5) 令和 6 年度末時点での修繕着手率（見込）ですが、主に管理区分 4 の小規模橋梁の修繕を進めることによって、修繕着手率が R5 末に 48%であったものを、R6 末には 75%になる見込みとなっています。

宮下先生から小規模橋梁の修繕方法について、ご質問をいただいています。小規模橋梁の修繕方法としては、基本的には断面補修等の簡易補修を行っていますが、う回路がない道路において、橋台の損傷が激しい箇所においては、ボックスに架け替える箇所も一部ありました。

資料 3-3 をご覧ください。

これまでの 10 年間の実施状況を伝えるにあたり、1 巡目点検、2 巡目点検に分けると全体像が分かりにくくなるため、「これまでの 1 巡目点検、2 巡目点検において健全度ⅢⅣになった施設の総数に対して、どのように修繕をしていたか」を整理したものにします。

(1) の表に赤囲みで記している箇所が、「これまでの 1 巡目点検、2 巡目点検で健全度ⅢⅣになった施設の総数」である 725 施設で、全体 3933 橋のうちの 18%が健全度ⅢⅣと判定しています。健全度Ⅳにつきましては、1 橋判定していますが、既に撤去済みとしています。

健全度ⅡⅣに対する修繕の実施状況を (2) で整理しました。こちらの表ですが、管理区分別に修繕の実施状況を整理したものに、管理区分 1（緊急輸送～交通量～）の場合は、全体橋梁数 60 施設に対して、健全度ⅢⅣと判定した橋梁数は 18 施設、R5 末では 18 施設に対して修繕着手しており、修繕着手率 100%となっています。

主な修繕事業は、管理区分別に事業費が大きい施設を選定していますが、新潟交通の萬代橋ラインが走る「関屋大橋」の場合は、10 年以上の期間をかけて、約 10 億円の事業費で修繕行っており、小阿賀野橋（国道 403 号の橋）の場合も約 10 年かけて、5.5 億円で事業を行っています。

同様に管理区分 2 の場合は R5 末では着手率 69%ですが R6, R7 で着手率を上げていく計画としています。主な橋は大阿賀橋をあげています。

管理区分 3 の場合は、健全度Ⅲでも老朽化が進んでいる C3 にならないければ、修繕着手しないシナリオであるミニマムメンテナンスとスタンダードメンテナンスのため、管理区分 1, 2 と比較すると、修繕着手率が上がらない計画となっています。

管理区分 4 につきましては、簡易補修を進めており、現地条件により修繕をしない施設もあることは聞いていますので、修繕着手率 100%まではいかないと思いますが、今後、着手率が上がることを想定しています。

最後に、新潟県と管理協定を締結しており、新潟県に管理をいただいている阿

賀浦橋につきましても、大規模橋梁になりますので、多くの費用がかかっている状況となっています。負担率が1/2で、8億円の事業費がかかっています。

最後にまとめです。

令和5年度末時点で修繕着手率は低いが、大規模な橋梁の修繕と併せて、小規模な橋梁の修繕を行うことで、修繕着手率が改善するよう、調整しています。これまで実施していた有明大橋等の大規模な橋梁の修繕も、進捗が進んでいる状況です。ただし、今年度点検において、新たに阿賀野川に架かる横雲橋が健全度Ⅲになっています。いちごっこになってしまっていますが、引き続き、適正に維持管理ができるよう、調整をしていく必要があると考えています。

丸山委員長

ありがとうございました。

ただいまの説明について、ご質問、ご意見などございましたらお願いします。

井林委員

タブレット点検について実績として取り上げていただきありがとうございます。タブレット点検は1橋あたり1.5万円程度の費用で取り組んでいますが、今年度、点検要領が変わったことで費用面に変化がありましたか。

事務局

今年度は点検要領が変わったことで点検項目を増やしたり、チョークでマーキングして記録する等の変更をしましたが、実際の点検時間は変わりませんでした。このため、今の段階で歩掛りは変えない予定です。

阿部委員

もし分かれば教えてもらいたいのですが、資料3-3の(2)健全度ⅢⅣと判定した橋梁の修繕状況の中で、管理区分1~3の橋梁で健全度ⅢⅣが3割程度だったのに対して、管理区分4では健全度ⅢⅣが1割程度に留まっているのはどうしてでしょうか。

事務局

管理区分4の橋梁で健全度ⅢⅣの割合が少ない理由として考えられるのは、管理区分4の橋梁が単純な形状の橋梁で、田んぼの真ん中に架かっていることが多く、塩害の被害を受けづらく、荷重もかからなく、使用頻度の低い橋梁が多いからだと思います。

阿部委員

管理区分4の橋梁は比較的長持ちしそうな橋梁が多いですか。

事務局

使用頻度が低いため、今直ぐどうにかなるようなことは無いと考えています。

丸山委員長

部材毎の健全度評価と橋全体の評価があって、健全度Ⅲを健全度Ⅱとして取り扱うような考え方ですが、維持管理戦略シナリオの都合で健全度を変えたと誤解を受けないよう、表現は工夫してもらいたい。よく調査した結果、すぐに修繕をする必要がないため、評価を見直して健全度Ⅱと判定したことが伝わるようお願いしたい。

田中委員

管理区分4の橋梁の補修工事を発注する際は、複数の橋梁をまとめたり、補修設計を簡易的にする等の工夫はされていますか。

事務局 概算数量で発注しています。実際の数量は現地を確認しないと分からないため、概算数量で発注し、受注者が現地を確認した後で、変更するような仕組みで実施しています。

田中委員 概算数量で発注すると効率が上がるのですか。

事務局 発注前、数量確認のための現地調査を省くことで効率化しています。

丸山委員長 他に、ご質問、ご意見などございますか。

それでは、ご意見、ご質問がないようですので、議事についてご了承をいただけたものということにさせていただきます。

様々なご意見・ご提案がありましたので、これらを踏まえながら、引き続き新潟市の方々につきましては、事業に取り組んでいただきたいと思います。

それでは本日の議事は全て終了しましたので進行を事務局にお返しいたします。

事務局 丸山委員長、ありがとうございました。また委員会ご出席の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。

中山課長補佐 皆様長時間にわたり、ありがとうございました。

本日皆様からいただきましたご意見につきましては、今後の更なる維持管理体制の深化を図っていくなかで参考にさせていただきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、以上を持ちまして、「令和6年度新潟市橋梁アセットマネジメント検討委員会」を終了させていただきます。長時間に渡り、ありがとうございました。

以上